

事例番号:320205

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第七部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

一絨毛膜二羊膜双胎の第2子

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 37 週 3 日 一絨毛膜二羊膜双胎妊娠のため帝王切開目的で入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 37 週 4 日

7:51-8:19 胎児心拍数陣痛図で一過性頻脈、基線細変動を認める

9:38- 胎児心拍数陣痛図で基線細変動消失、一過性頻脈消失、徐脈を認める

10:05 胎児機能不全の診断で帝王切開により児娩出

胎児付属物所見 胎盤に血管吻合あり

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:37 週 4 日

(2) 出生時体重:2400g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析(分娩時):pH 7.34、BE -2.3mmol/L

(手術後の胎盤):pH 6.98、BE -9.1mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 1 点、生後 5 分 3 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バック・マスク)、胸骨圧迫、気管挿管

(6) 診断等:

出生当日 重症新生児仮死、Sarnat 分類Ⅲ度

(7) 頭部画像所見:

生後 6 日 頭部 MRI で低酸素性虚血性脳症を認める

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 2 名、小児科医 2 名、麻酔科医 3 名

看護スタッフ: 助産師 2 名、看護師 3 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、妊娠 37 週 4 日の 8 時 19 分以降 9 時 38 分までの間に生じた胎児低酸素・酸血症が出生時まで持続したことによって低酸素性虚血性脳症を発症したことであると考えられる。

(2) 胎児低酸素・酸血症の原因は、臍帯血流障害の可能性はある。

(3) 一絨毛膜双胎が胎児低酸素・酸血症の背景因子である可能性を否定できない。

3. 臨床経過に関する医学的評価 (2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

(1) 妊娠中の管理は一般的である。

(2) 双胎妊娠に対して、妊娠 37 週 4 日に選択的帝王切開の予定としたことは一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 37 週 3 日、帝王切開目的のための入院後の管理(分娩監視装置装着、パルサイン測定実施)は一般的である。

(2) 妊娠 37 週 4 日に基線細変動やや乏し目で振動音響刺激を実施したこと、「胎児 distress」の診断で帝王切開を決定したこと、および小児科医立ち会いとしたことは、いずれも一般的である。

(3) 帝王切開決定から 15 分後に児を娩出したことは適確である。

(4) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

### 3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、胸骨圧迫、気管挿管、持続的気道陽圧)は一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

- (1) 双胎での胎児心拍数陣痛図において、I児とII児の胎児心拍数波形の区別ができるように記録することが望まれる。

【解説】本事例は、胎児心拍数陣痛図の一部においてI児とII児の区別がされていなかった。「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2020」では、双胎において37週以降妊娠を継続する場合は同時期単胎よりも胎児の健全性(well-being)に注意するとされており、双胎用分娩監視装置では2児の胎児心拍数波形が同一チャートに記録されるため双胎2児の健全性を個別に評価するためには、I児とII児が分かるように記録することが望まれる。

- (2) 胎盤病理組織学検査を実施することが望まれる。

【解説】胎盤病理組織学検査は、子宮内感染や胎盤の異常が疑われる場合、また重症の新生児仮死が認められた場合、特に一絨毛膜双胎の場合には、その原因の解明に寄与する可能性がある。

### 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

#### (1) 学会・職能団体に対して

陣痛開始前に発症した異常が胎児低酸素・酸血症を引き起こしたと推測される事例を集積し、原因や発症機序についての研究を推進することが望まれる。

#### (2) 国・地方自治体に対して

陣痛開始前に発症した異常が胎児低酸素・酸血症を引き起こしたと推測される事例の発症機序解明に関する研究の推進および研究体制の確立に向けて、学会・職能団体への支援が望まれる。